令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　　三園小　　学校

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」では、国語の正答率は全国平均を下回り、算数もやや下回った。特に国語の「情報の扱い方に関する事項」と「読むこと」の結果において、平均との開きが大きかった。国語・算数ともに標準偏差の数値が全国平均よりも大きかった。
○「TOFAS」では、４年生の算数が板橋区平均をやや上回り、それ以外は板橋区平均と同程度かやや下回った。
○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、自分で課題意識をもって学習方法を工夫することや、自分の考えや質問を相手に伝えることに課題が見られた。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○基礎・基本の定着を図る必要がある。
○自ら課題をもち、主体的に学習に取り組む態度の向上を図る必要がある。
○学習内容の定着にばらつきが見られるので、下位層の底上げを目指す。
○教科書や資料から情報を読み取り、それを生かして自分の考えを表現する力の育成が必要である。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「３つの資質・能力」の育成、『分かった、できた、楽しい』授業の実現
・教師が学ばせる授業から児童が自ら学ぶ授業への転換を図り、問題解決型、探究的な授業や協働学習、体験学習を取り入れ、『主体的・対話的で深い学び』『個別最適な学びと協働的な学び』の実現を図る。
・「めあて」から「振り返り」までの授業スタンダードを徹底し、ICT機器を効果的に活用して、読み解く力・学びに向かう力を育成を図る。
・授業スタンダードによるInput・Think・Outputと基礎的読解力を意識した児童主体の授業を行うことで、読み解く力や根拠を基に自分の考えを表現する力を育成する。
○基礎・基本の徹底
・校内研究を充実させ、読み解く力の育成を図る。
・フィードバック学習を全学級で実施し、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
○一単位時間中に「Input・Think・Output」を設定し、知り、考え、伝える活動をセットにすることで学びの質の向上を図る。 ○めあての設定から振り返りの記述まで問題解決型の授業を実践し、児童の主体的学習を推進する。	○「学習用語を押さえる」「問題解決時間を確保する」「表現まで行う」を徹底し、教科書等から読み取ったことを基に考え、伝える活動を毎時間の授業の中で実践する。	○子どもの疑問から課題を設定し、情報収集などの探究活動・発表等の表現活動を行い、「自分たちにできることを考え、実践できる力」を育成する。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアの教員が義務教育９年間という系統性を意識した研修を実施する。９年間の学習の「到達点」や、高校入試において求められる資質・能力について研修会で協議する。 ○目標の明示、自力解決、協働学習、振り返りの実施という授業の流れや、「Input・Think・Output」の活動を取り入れた学習を行う。 ○小中それぞれの授業公開において、「読み解く力」の育成を視点に、分科会で９年間の系統性を検討し、日々の授業に生かす。	○総合的な学習の時間において、「環境」及び「SDGs」と関連のある単元を全学年で年間１回ずつ設定し、板橋のiカリキュラムの推進を図る。 ○環境教育では、地域人材を活用しながら「ビオトープ池」や「蓮の栽培」等の校内の豊かな自然環境を生かした体験学習を行い、自然を大切にする心情と、環境保全を考えて実践する態度を育てる。 ○校内の自然を保護する活動を生かして愛校心を育むとともに、地域の商店や高齢者施設との交流を通して板橋を知る学習を推進し、郷土愛の育成を図る。	○一人一台端末や電子黒板を活用し、個人の考えの発表や集団での考えの共有、検討を充実させる。 ○一人一台端末を活用し、個別の進度に合わせたドリル学習を進めたり、アンケートで一人一人の実態を把握したりして、個別最適な学びの充実を図る。 ○オンライン授業配信を通して、欠席者や登校に不安のある児童をサポートする。